

小松島中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ① 生徒の思考を深め、表現力を育てる授業の実践
- ② 学校と家庭との連携による基本的な生活習慣(特に学習習慣)の確立

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 学年担当兼任 長尾友香(3年) 中村桃子(1年)

委員 藤本孝之(学校長), 山根祥道(教頭), 西健治(教頭), 黒田咲智(教務主任), 澤井雅美(研修主任), 田村陽子(特別支援コーディネーター), 井上香織(2年担当),

校長

藤本 孝之 印

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の書き取りや計算練習など、基本的な学習課題に対して真面目に取り組む。 ●問題文の読み取りが苦手、基礎的・基本的な知識・技能の習得が不十分な生徒が多い。	①毎時間の授業(学習)に意欲的に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を身につける。 ②身につけた知識・技能を、他の学習や生活の場面において活用することができる。	①授業において本時の学習目標を提示し本時の振り返りを徹底する。 ②教材、発問、板書、小テスト、評価の工夫 ③日々の朝学習の取組に注力する。 ④ICT機器や AI ドリル、学力向上確認プリント等を積極的に活用し、「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的推進を図る。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の意見を発表したり、他人の意見をよく聴いたりする姿勢が育ちつつある。 ●解決したい課題に応じて、必要な情報や資料等を収集し、自分の考えをまとめたり、表現したりすることに消極的な生徒が多い。	①自分の考えをまとめ、根拠を明らかにして、適切に表現することができる。 ②図書やインターネット等で必要な情報を収集し、目的に応じてまとめ、活用することができる。	①スピーチや説明・報告など、対話的で深い学びの場を積極的に設定する。 ②学級文庫・新聞等を活用し、読書習慣を身につけさせる。 ③タブレット端末やICT機器を効果的に活用させる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業準備や3分前着席を心がけ、学習課題に対して真面目に取り組むようになってきた。 ●家庭で主体的に学んだり、不得意な学習に対して、計画を立てて取り組んだりすることに課題がある。	①進路に目標をもち、学校でも家庭でも、各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ②自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。	①授業における主体的な学びを図るとともに、家庭での学習習慣を定着させる。AIドリルを使って、自分に合った問題を選択し取り組めるようにしていく。 ②キャリア教育の充実に努める。 ③コミュニティ・スクールを生かし、地域人材を積極的に活用する。			

令和5年度 学力向上ロードマップ

